



開発途上国の多くの人々が高い食料価格の影響を受けている ©FAO/Alessandra Benedetti

## 多くの国で依然として非常に高い食料価格 ——高価格は貧しい人々に悪影響を及ぼす

食料の国際価格が急落し、穀物の収穫見通しも全体的に良好であるにもかかわらず、開発途上国における国内食料価格は依然高いままである——FAOは最新レポート「穀物見通しと食料事情 (Crop Prospects and Food Situation)」で警告しました。

サハラ以南アフリカでは、FAOがモニタリングしている27カ国のうち80-90%において、またアジアとラテンアメリカ・カリブ海諸国では31カ国のうち40-80%において、穀物価格が2年前の食料価格危機以前に比べ25%以上高くなっています。レポートは、高い食料価格の理由はさまざまであるとし、収穫の減少、輸入価格の上昇または輸入の遅れ、内紛、近隣諸国の高い需要および地域の流通、通貨の切

り下げ、食料・貿易政策の変更、所得と需要の増大、輸送の制約や輸送コストの上昇などを挙げています。所得の多くを食料の購入に充てている都市部・農村部の脆弱な人々の食料安全保障が懸念されます。

11月16-18日には、飢餓撲滅、国際農業システムのガバナンスの向上、そして世界の食料安全保障を確保するための政策やプログラムに関して基本的なコンセンサスを得るため、世界食料サミットがローマのFAO本部で開催される予定です。(7/16、ローマ)

### 関連ウェブサイト

Crop Prospects and Food Situation : [www.fao.org/docrep/012/ai484e/ai484e00.htm](http://www.fao.org/docrep/012/ai484e/ai484e00.htm)

World Food Situation : [www.fao.org/worldfoodsituation](http://www.fao.org/worldfoodsituation)

FAO日本事務所：プレスリリース：食料価格は多くの国で依然非常に高い：  
[http://www.fao.or.jp/media/press\\_090716.pdf](http://www.fao.or.jp/media/press_090716.pdf)

## Contents

Top .....

多くの国で依然として非常に高い食料価格

Articles .....

ベナンでコメが新たな希望に

口蹄疫に対する世界的な取り組み始まる

国際食品規格委員会、危険な化学物質の基準を採択

ザンベジ川流域の魚に致死性の病気が広がる

山火事の問題

Perspectives .....

今月の視点  
世界食料デー

Activities .....

シンポジウム  
講演

Info .....

今後の主な活動予定

テレフォード募金にご協力を

メールニュース配信のお知らせ

FAO 寄託図書館のご案内

本紙の配布について



コメは世界の半数以上の人々の主食である ©FAO/Pietro Cenini

## ベナンでコメが新たな希望に ——高品質の種子により自給と輸出の可能性

西アフリカのベナンで、2011年までにコメの生産を倍増させることを目指すFAOのプロジェクトが、今年9月から始まります。これは、西アフリカ諸国において、食料の需要の高まりに生産が追いつかず輸入費用がかさんでいることや、食料価格の高騰に対応するための取り組みです。ベナンは2004年には24万トンのコメを輸入しましたが、FAOの専門家によると、ベナンではコメ生産が可能な土地（32万2,000ha）の8%しか活用されておらず、ここに高品質の種子を植え付けると生産を30万トンにまで倍増させることが可能となります。これにより、国内需要をまかなうだけでなく、余剰分を周辺国の市場に輸出することも期待できます。プロジェクトは、アフリカ稲センター（WARDA）や、ベナン政府、地元NGOの協力を得て行われます。（7/15、ローマ）

### 関連ウェブサイト

National programmes for Food Security : [www.fao.org/spfs/national-programmes-spfs/nationalprogrammes-food-sec-npfs](http://www.fao.org/spfs/national-programmes-spfs/nationalprogrammes-food-sec-npfs)  
Africa Rice Center (WARDA) : [www.warda.org](http://www.warda.org)

## 口蹄疫に対する 世界的な取り組み始まる

FAOと国際獣疫事務局（OIE）は、パラグアイで開いた国際会議において、口蹄疫管理推進のための世界的な取り組みを開始したことを明らかにしました。口蹄疫は、多くの途上国で遊牧民や農村世帯に影響を及ぼしただけでなく、2001年には英国、アイルランド、フランス、オランダといった先進国でも、この疾病によって600万頭の家畜が処分され110–120億USドルの損害が発生し、ウイルス除去のため8ヵ月を費やしました。口蹄疫は国境を問わずに広がるため、地域的・国際的な連携が不可欠です。（7/23、ローマ）

### 関連ウェブサイト

FAO Animal Production and Health Division : [www.fao.org/ag/againfo/home/en/index.htm](http://www.fao.org/ag/againfo/home/en/index.htm)  
EuFMD : [www.fao.org/ag/againfo/commissions/en/eufmd/eufmd.html](http://www.fao.org/ag/againfo/commissions/en/eufmd/eufmd.html)  
EMPRES : [www.fao.org/ag/againfo/programmes/en/empres/home.asp](http://www.fao.org/ag/againfo/programmes/en/empres/home.asp)

## 国際食品規格委員会、 危険な化学物質の基準を採択

125ヵ国から500名が参加して開かれたコーデックス（国際食品規格）委員会<sup>\*</sup>において、30を超える新たな国際基準や行動基準、ガイドラインが定められました。この中には、ジャガイモ製品の製造過程におけるアクリルアミドの発生防止に関する指針や、食品のくん製・乾燥過程で発生し得る多環式芳香族炭化水素（PHA）を削減するための行動基準、コーヒー生産国に向けたオクラトキシンA発生防止のためのガイドライン、免疫障害乳児のための粉末製剤に関するサルモネラ菌等の基準、インスタント食品に関するリステリア菌検査基準などが含まれます。また、食品や飼料におけるメラミンの最大基準値設定を目指すプロジェクトをはじめ、複数の新たなプロジェクトも開始しました。（7/6、ローマ）

<sup>\*</sup> 消費者の健康を保護し公平な食料貿易を促すことを目的に1963年に発足した、FAOとWHO（世界保健機構）による合同委員会

### 関連ウェブサイト

Codex Alimentarius : [www.codexalimentarius.net](http://www.codexalimentarius.net)  
Nutrition and Consumer Protection Division (FAO) : [www.fao.org/ag/agn](http://www.fao.org/ag/agn)  
Food Safety (WHO) : [www.who.int/foodsafety](http://www.who.int/foodsafety)

アクリルアミドはジャガイモを揚げる過程で発生する可能性がある  
©FAO/Alessandra Benedetti





レバノンのシューフ山地で、雑草や育ち過ぎの木を除去するために農民が行う野焼きを管理する防火監督者  
©FAO/Kai Wiedenhofer

## ザンベジ川流域の魚に 致死性の病気が広がる

アフリカのザンベジ川流域で流行性潰瘍症候群（EUS）という致死性の病気が魚類に広がっていると、FAOが警告を發しました。EUSは1970年代に日本で初めて発生が確認された後、オーストラリア、アジア諸国、米国へと広がり、アフリカでは2007年に初めて確認されました。現在、ザンビアを中心にザンベジ川流域の7ヵ国に広がり、魚を重要なたんぱく源としている人々だけでなく、漁業で生計を立てる人々に深刻な影響を与えています。EUSは直接ヒトの健康には害を与えませんが、潰瘍でさまざまな病原菌が繁殖することから、魚は十分に調理しない限り食べないように警告されています。FAOはOIEと協力し、被害国の対応能力を高めるための支援を行っています。（7/21、ローマ）

### 関連ウェブサイト

Global Information and Early Warning System : [www.fao.org/GIEWS](http://www.fao.org/GIEWS)  
OIE on EUS : [www.oie.int/eng/normes/fcode/en\\_chapitre\\_2.1.10.htm](http://www.oie.int/eng/normes/fcode/en_chapitre_2.1.10.htm)  
FAO Fisheries and Aquaculture Department : [www.fao.org/fishery](http://www.fao.org/fishery)  
FAO Emergency Disease Investigation Task-force Report : [www.fao.org/docrep/012/i0778e/i0778e00.htm](http://www.fao.org/docrep/012/i0778e/i0778e00.htm)

## 山火事の問題

### ——被害軽減への包括的アプローチ

世界では、山火事により毎年3億5,000万haの土地が被害を受けています。スーダンでは2000-2008年に20万件、エチオピアでは同時期に40万件が確認されました。地中海地域やサハラ以南アフリカ、オーストラリア、北アメリカでも、山火事は件数・被害総額ともに増加傾向にあります。

山火事の原因の多くは人為的なものですが、火災管理をますます難しくさせているのは、人口増加により火災のリスクが高い土地に建物が増えていることです。こうしたケースには、居住区に近接した低木を十分な管理のもとで野焼きするといった対策が取られます。FAOはまた、現地のコミュニティに対し、火災の予防やモニタリング、管理を支援するほか、最近では欧州宇宙機関（ESA）やアメリカ航空宇宙局（NASA）と共同で、衛星を利用して山火事の位置情報を提供し生物多様性への被害を予測する火災早期警報システムを構築し、火災モニタリングを行っています。（7/27、ローマ）

### 関連ウェブサイト

Fire management Voluntary guidelines : Principles and strategic actions : [www.fao.org/docrep/009/j9255e/j9255e00.htm](http://www.fao.org/docrep/009/j9255e/j9255e00.htm)  
Fire management : [www.fao.org/forestry/firemanagement](http://www.fao.org/forestry/firemanagement)

## 今月の視点

### 世界食料デー

FAOでは、設立日の10月16日を「世界食料デー」として、特に、この時期に食料問題への関心を高める活動を強化しています。毎年、特定のテーマを定めています。今年のテーマは、「危機における食料安全保障の達成」です。2007年から2008年にかけての「食料危機」の影響が引き続くなかで、「世界経済危機」の影響から賃金、雇用が減少し、開発途上国の食料安全保障は、ますます悪化しています。これら2つの危機により、今年の世界の飢餓人口は10億人を超えたと推定されています。

FAOは、脆弱な人々の保護とともに、開発途上国の小規模生産者への支援が急務であり、このため、年間300億ドルの農業への投資が必要と考えています。軍事支出に年間1兆3,400億ドルが費やされ、金融部門の立て直しに何兆ドルもの財源が見出されることを考慮すれば、不可能な金額ではないはずです。300億ドルの投資は、1,200億ドルの便益をもたらす、農業生産性の向上、貧しい農村社会での食料安全保障の改善、天然資源の開発・保全、農村インフラの整備とマーケット・アクセスの拡大、農業技術の普及等が図られます。11月の世界食料サミットにおいて、飢餓根絶に向けて、大きな前進があることが期待されます。

（FAO日本事務所長 横山光弘）

世界食料デーウェブサイト : [www.fao.org/getinvolved/worldfoodday](http://www.fao.org/getinvolved/worldfoodday)

# Activities

## シンポジウム

7月28-29日、横浜市主催の横浜開港150周年記念イベント「一国際機関と共に考える世界のこことヨコハマ・インターナショナル・2デイズ」が、JICA横浜で開催されました（FAO日本事務所協力）。28日は、「気候変動と農業 わたしたちの食料の未来」をテーマに、FAO環境・気候変動・バイオ燃料部気候モデリングオフィサーの金丸担当官が、農業環境技術研究所大気環境研究領域の飯泉特別研究員およびハンガー・フリー・ワールド開発事業部ベナン・ブルキナファソ担当の富田氏と共に、気候変動が世界および日本の農業、食料に与える影響について講演を行いました。講演後は、農林水産省の協力で、つくばの国際農林水産業研究センターで作られたネリカ米の試食も行われ、80名を超える参加者たちからは、現場での状況からパーチャル・ウォーターに関するもので、幅広い質問がありました。29日のパネルディスカッションには横山FAO日本事務所長が参加し、FAOと横浜の関わりとして、横浜開港と生糸についての紹介などを行いました。

### 関連ウェブサイト

横浜市：「国際機関とヨコハマ」共同シンポジウム開催：www.city.yokohama.jp/me/keiei/kokusai/international.html



28日の講演会（左から金丸氏、飯泉氏、富田氏）©FAO/LOJ

## 講演

8月1日、横山FAO日本事務所長が石川県立大学で開催された食品工学会年次大会のシンポジウムにおいて講演しました。シンポジウムは「環境・食品・エネルギーを巡る諸問題」をテーマに行われ、横山所長からは、バイオエネルギーや外国による農業投資の問題に触れつつ、食料価格高騰と世界不況という2つの危機のために、貧困国の食料安全保障が著しく悪化していることが説明されました。また、気候変動に

関連して、不耕起栽培など保全農業を推進することにより土壌中の二酸化炭素固定量を増大させることが重要であり、2013年以降の地球温暖化防止の国際的枠組みにおいて、開発途上国の保全農業を支援するようなメカニズムを組み込むことが必要となっていることにも言及がありました。

### 関連ウェブサイト

日本食品工学会：2009年度年次大会：www.jsfe.jp/annual\_meet/2009/taikai2009.pdf

## 今後の主な活動予定

2009.9.5-6

### 横浜国際フェスタ2009

神奈川/パシフィコ横浜 展示ホール  
「横浜国際フェスタ2009」組織委員会主催、  
FAO日本事務所ブース出展

2009.9.17

### 第1回食料・農業協力講演会 「越境性/新興動物伝染病の現状と対策」

講師：藤田陽偉氏（OIEアジア・太平洋地域代表）  
東京/政策研セミナー室  
JAICAF・政策研共催

2009.10.3-4

### グローバルフェスタ JAPAN2009

東京/日比谷公園  
グローバルフェスタ JAPAN2009 実行委員会主催、  
FAO日本事務所ブース出展

2009.10.12-13

### International Conference on “How to Feed the World in 2050” FAO Headquarters, Rome

2009.10.14-17

### Committee on World Food Security (CFS) ; 35th Session, FAO Headquarters, Rome

2009.10.16

### 世界食料デー

### テレフードチャリティコンサート2009 「大地の詩」

神奈川/横浜みなとみらい大ホール  
FAO日本事務所ほか主催、JAICAFほか後援

2009.10.18-25

### XIII World Forestry Congress, Buenos Aires, Argentina

2009.10.25

### 世界食料デー・ 国際天然繊維年シンポジウム

神奈川/パシフィコ横浜 会議センター  
FAO日本事務所主催、JAICAFほか後援

## テレフード募金にご協力を

募金は、アジアやアフリカの食料不足の地域で、貧困農民の食料増産を支援する「テレフード・プロジェクト」に使用されます。

※振替手数料無料。ご寄付は税金控除の対象となります。

### 郵便振替口座

00140-1-29732

FAO 飢餓撲滅草の根募金



## メールニュース配信のお知らせ

FAO日本事務所では、FAOに関する各種情報をEメールで不定期に配信しています。ご希望の方は下記までご連絡ください。

FAO-Japan-Info@fao.org

## FAO 寄託図書館のご案内

### 所在地

神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1  
パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階  
FAO日本事務所内

### 利用予約および問い合わせ

TEL：045-226-3148

E-mail：fao-library@jaicaf.or.jp

### 開館時間

平日10:00-12:30、13:30-17:00

## 本紙の配布について

本紙「FAO Newsletter」は、季刊誌「世界の農林水産—FAO ニュース—」とセットでJAICAFの会員にお送りしています。ご希望の方はJAICAFまでお申し込みください。指定場所でも配布しています。詳しくはJAICAFウェブサイトをご覧ください。

発行：(社)国際農林業協働協会 (JAICAF)

〒107-0052

東京都港区赤坂8-10-39 赤坂KSAビル3階

TEL：03-5772-7880

E-mail：fao@jaicaf.or.jp

URL：www.jaicaf.or.jp

共同編集：宮道 りか、Linda Yao (FAO日本事務所)

森 麻衣子、廣瀬 ちづる (JAICAF)

翻訳協力：大軒 恵美子 ほか

デザイン：岩本 美奈子、藪内 新太

News source：www.fao.org

この用紙は再生紙を使用しています

## FAO Newsletter

Sep. 2009

vol.42